

情報活用能力育成のための指導事例【小学校 第4学年 算数】

単元・題材名	角	指導時間（本時）	3 / 5
本時の目標	教科・科目	<ul style="list-style-type: none"> 分度器の使い方を知り、角の大きさを正しく測ることができる。 	
	情報教育（3観点8要素）	<p>[実践] ■課題や目的に応じた情報手段の適切な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの情報機器の操作方法を知る。(モA11-1-010) ■受け手の状況などを踏まえた発信・伝達 自分の考えを相手に分かるように表現する。(モA41-2) 	
活用する主なICT機器等	<ul style="list-style-type: none"> ■コンピュータ ■実物投影機（教材提示装置、書画カメラ） ■デジタルテレビ ■ソフトウェア（教育用ソフトウェア等） 		
本時の概要	<p>児童の分度器の操作を実物投影機で拡大提示し、説明させることで、発表する態度を養うとともに、他の児童にもよい点や誤りなどにも気付かせ、互いに学び合わせる。</p>		
本時の流れ	主な学習活動		ICT活用の工夫及び留意点等 (○：教員の活用，◎：児童生徒の活用)
	導入	<ol style="list-style-type: none"> 前時の振り返りをする。 問題場面を把握し、本時のめあてを確認する。 解決の見通しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に学習した内容について、デジタル教科書を活用し、デジタルテレビに提示し確認する。 ※ 前時の振り返りが容易にできる。
	展開	<ol style="list-style-type: none"> 自力解決をする。 相互解決する。 【ペア】→【全体発表】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル教科書の分度器のコンテンツを活用し、デジタルテレビで操作しながら、分度器の使い方を確認させる。 ※ 細かい目盛りの読み取りや操作方法等、分かりやすく説明できる。 ◎ 児童の発表の場面において、実物投影機を活用させ、分度器の操作をデジタルテレビに拡大提示し説明させる。 ※ 他の児童もよい点や誤りに気付くことができ、互いに学び合うことができる。
	終末	<ol style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書のコンテンツを活用し、デジタルテレビで分度器の使い方を、再度確認する。 ※ 本時の振り返りが容易にできる。
使用した教材・資料（コンテンツ）	<p>○名称・出典・内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書4年算数（分度器のコンテンツ） <p>〈内容〉教科書をデジタルデータとして、デジタルテレビで提示できる。拡大提示や部品なども充実しており、書き込みやコンテンツを操作しながら説明できる。</p>		
ICT活用の指導上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 実物投影機を活用して、分度器などの小さな計器の操作手順や目盛りの読み取りなど、拡大提示することで児童の理解を深めることができる。また、自分の考えを操作とともに発表させることで、受け手の状況を踏まえた発信・伝達する能力を養うことができる。 		
備考	<p>○ICT活用に関して日頃から気を付けていることなど</p> <ul style="list-style-type: none"> 実物投影機にSDカードを挿入すると録画機能が使用できるため、その機能を活用し、過去の発表もデータとして蓄積するようにしている。 		

【本時の目標における情報教育（3観点8要素）の略記について】

「情報活用の実践力」→ [実践], 「情報の科学的な理解」→ [理解], 「情報社会に参画する態度」→ [態度]

「情報活用能力育成モデルカリキュラム」の対応番号→モ番号